LAC supports your Business

We provide IT total solutions
based on advanced security technologies.

LAC
ともに、イキル

2020年3月期 第2四半期決算説明資料

2019年11月6日

株式会社ラック

1.2020年3月期 第2四半期決算概要
2.2020年3月期 連結業績予想
3.補足資料

連結決算ハイライト（前年同期比）

売上高はセキュリティ製品やHW/SW販売の増加により増収、利益はＳＳＳ事業のサービス売上減や社内ITシステムの刷新等の投資もあり大幅減益

（百万円）

科目	'19年3月期 2Q累計実績	'20年3月期 2Q累計実績	前年同期比増減	
			増減額	増減率(%)
売上高	**17,757**	**18,819**	**+1,061**	**+6.0**
営業利益	**571**	**57**	**△514※**	**△90.0**
営業利益率%	*3.2*	*0.3*	*△2.9p*	-
経常利益	**560**	**115**	**△444**	**△79.4**
経常利益率%	*3.2*	*0.6*	*△2.5p*	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	**276**	**58**	**△218**	**△78.9**

※IT投資、業務効率向上のための投資分として約1.5億円が含まれています。

セグメント別業績（前年同期比）

ＳＳＳ事業は増収減益、ＳＩＳ事業は増収増益
社内ITシステム刷新やオフィス開設などの投資で全社共通費用が増加

（百万円）

売上高	'19年3月期 2Q累計実績	'20年3月期 2Q累計実績	前年同期比増減	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	6,807	7,303	+496	+7.3
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	10,949	11,515	+565	+5.2
合計	17,757	18,819	+1,061	+6.0

（百万円）

セグメント利益	'19年3月期 2Q累計実績	'20年3月期 2Q累計実績	前年同期比増減	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	892	655	△237	△26.6
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	1,213	1,222	+8	+0.7
全社共通費用	△1,534	△1,820	△285	-
合計	571	57	△514	△90.0

※セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の、事業にかかる販売費および管理費を含めた利益です。

製品販売の伸長により増収、サービス売上の減少や償却費増により減益

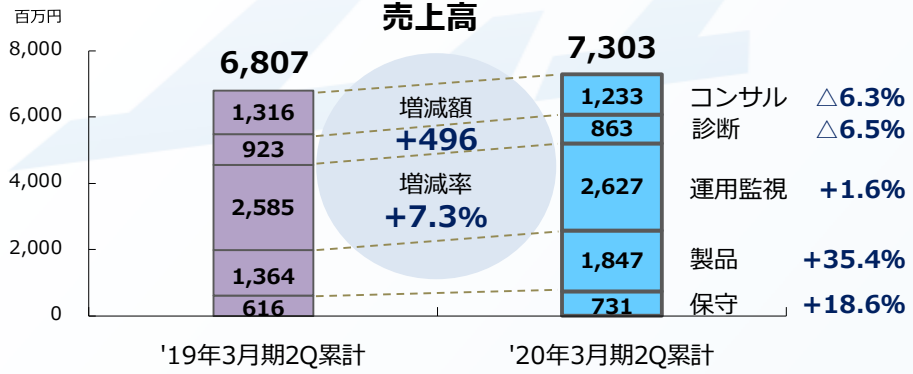
●コンサルティングサービス
教育分野で企業・団体を対象とした個別開催の案件が拡大した一方、企業内対策チームの運用支援などの案件が減少

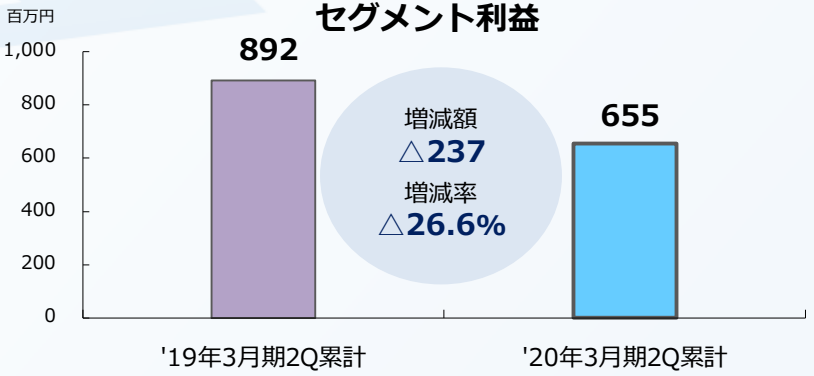
●運用監視サービス
新規案件の獲得が伸び悩んだものの、中部地域大手製造業向け運用監視サービスの売上が拡大

●診断サービス
企業内ネットワークなどの脆弱性を審査するプラットフォーム診断は伸長したものの、Webアプリケーション診断などが伸び悩み

●製品販売
サービス妨害型攻撃に対応した製品が拡大するとともに、潜在的な脅威情報を調査する製品の販売も寄与

サービス売上の減少や新サービス立ち上げに伴う減価償却費の増加等によりセグメント利益は減益





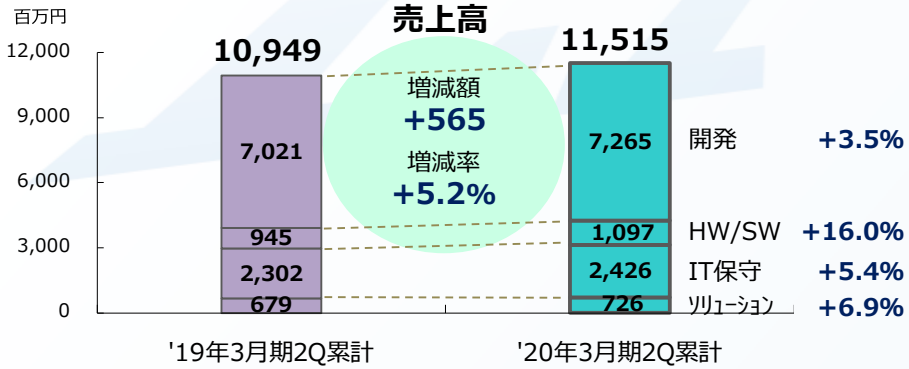
開発サービス、HW／SW販売が拡大し増収増益

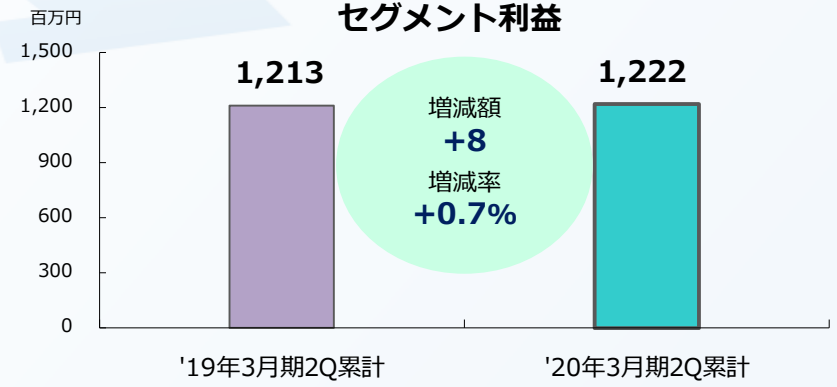
●開発サービス
前年同期の大型案件による売上・仕掛計上が当四半期にはなく、金融業などにおいて新規受注案件の獲得遅れなどがあったものの、情報サービス業を中心とした金融業以外の案件が拡大

●ＩＴ保守サービス
前期のHW／SW販売は低調であったものの、契約更新案件等が増加

●HW/SW販売
クラウドサービスの拡大などにより需要が縮小するなか、更新案件などの獲得が堅調

●ソリューションサービス
子会社の㈱ジャパン・カレントが提供するデジタルマーケティングサービスの売上が伸び悩んだものの、データセンター関連等のサービスが伸長





連結貸借対照表ハイライト（前期末比）

事業上の必要資金を保持しつつ、安定した財務基盤を維持

（百万円）

科目	‘19年3月期末	‘20年3月期 2Q末	前期末比 増減
資産合計	**22,613**	**20,659**	**△1,953**
流動資産	16,464	13,949	△2,514
固定資産	6,148	6,709	+561
負債合計	**11,308**	**9,447**	**△1,861**
流動負債	9,632	8,143	△1,489
固定負債	1,675	1,304	△371
純資産合計	**11,305**	**11,212**	**△92**
現預金	4,343	4,576	+233
有利子負債	2,351	2,736	+384
自己資本比率	**50.0%**	**54.3%**	**+4.3p**

増減ポイント

資産

【流動資産】

- 受取手形及び売掛金の減少 △1,861
- その他に含まれる前払費用の減少 △2,859
- その他に含まれる前渡金の増加 +907
- 商品の増加 +773

負債

【流動負債】

- 短期借入金の増加 +800
- その他に含まれる前受収益の減少 △2,692
- その他に含まれる前受金の増加 +626

純資産

【純資産】

- 利益剰余金の減少 △67

連結キャッシュ・フロー計算書ハイライト

営業キャッシュ・フローが大幅改善
投資を積極推進しつつフリー・キャッシュ・フローも改善

（百万円）

科目	‘19年3月期 2Q累計実績	‘20年3月期 2Q累計実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	**△523**	**1,384**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△390**	**△1,197**
財務活動によるキャッシュ・フロー	**317**	**59**
フリーキャッシュ・フロー	**△914**	**186**
現金および現金同等物の増減額（△は減少）	△593	233
現金および現金同等物期首残高	5,103	4,343
現金および現金同等物期末残高	**4,509**	**4,576**

発生ポイント

営業キャッシュ・フロー

・税金等調整前四半期純利益	114
・減価償却費	385
・のれん償却額	36
・法人税等の支払額	△488
・売上債権の減少額	2,171
・たな卸資産の増加額	△794

投資キャッシュ・フロー

・有形固定資産の取得による支出	△577
・ソフトウェアの取得による支出	△626

財務キャッシュ・フロー

・短期借入金の純増加額	800
・長期借入金の返済による支出	△366
・配当金の支払額	△311

事業状況（全体概要）

ＳＳＳ事業

エンドポイントの
セキュリティ対策の
需要が高まる

監視サービス、緊急対応サービスとも
需要拡大は下期以降にずれ込み

監視を中心に新サービス開発等を推進

ＳＩＳ事業

クラウド支援や
アジャイル開発手法の
需要が高まる

金融業を中心にクラウド案件が拡大

一方で想定したほどは案件獲得が伸びず

クラウド開発やアジャイル開発手法を担う
エンジニア層を拡充

下期でのキャッチアップに注力

重点施策の進捗（ＳＳＳ事業）

社会基盤から中堅・中小までマーケットに応じたサービス展開

●中部大手製造業向けの監視サービスのビジネス拡大

監視・運用対象となるグループ企業の継続拡大

●大手企業向けエンドポイントセキュリティ対策の推進

脅威収集機能に優れるMicrosoft社、CrowdStrike社製品向けサービスの導入・受注拡大

●中堅・中小企業向けサービスと販路の拡大

自動セキュリティ監視システム「CloudFalcon（クラウドファルコン）」の機能拡充とパートナー企業拡大

●協業の更なる推進

TIS㈱とクラウドおよびセキュリティ領域で協業

・金融、製造・サービスなどのエンタープライズ企業および公共分野向けに展開

九州工業大学とAIを活用したサイバー防御における共同研究の開始

重点施策の進捗（ＳＩＳ事業）

お客様のデジタルトランスフォーメーションを支援するITソリューションの提供

●キラーツールを切り口とした顧客課題解決型サービスの推進

働き方改革支援サービスの提供

・遠隔地間でリアルタイムに情報共有できる「リモート接続ソリューション」（日本TeamViewer社）
・PC画面からの情報流出を防止する「顔認証のぞき見ブロッカー」（㈱セキュア）

DevSecOps※支援サービスの提供

・マルチクラウドでのセキュアな開発ソリューション「Vault（ヴォルト）」（HashiCorp社）を活用した支援

●クラウド環境のシステム開発案件の拡大

金融業界向けに案件拡大、クラウドエンジニアを確保・拡充する開発体制の構築推進

サポート終了製品の延命支援サービスの提供

・企業内サーバ（Windows Server 2008）をセキュリティ診断付でクラウドへ移行支援

●お客様のデジタルトランスフォーメーションの支援

アジャイル開発のエンジニア育成強化、コーチ・エンジニアの派遣および常駐の推進

※開発・運用スピードを妨げず、高いセキュリティを担保した開発を可能とする手法

重点施策の進捗（攻めの経営）

デジタルトランスフォーメーション・働き方改革の推進

●デジタルトランスフォーメーションの推進

社内基幹システムの統合・刷新

・2020年度の運用開始に向けた基本設計・システム構築の推進

クラウドを徹底活用した業務推進

・社内ICTツール（メール、チャット等）のOffice365全面切替（2019年7月以降順次）

●ガバナンス体制の徹底強化

「リスク統括員会」による組織横断的なリスクチェックの推進

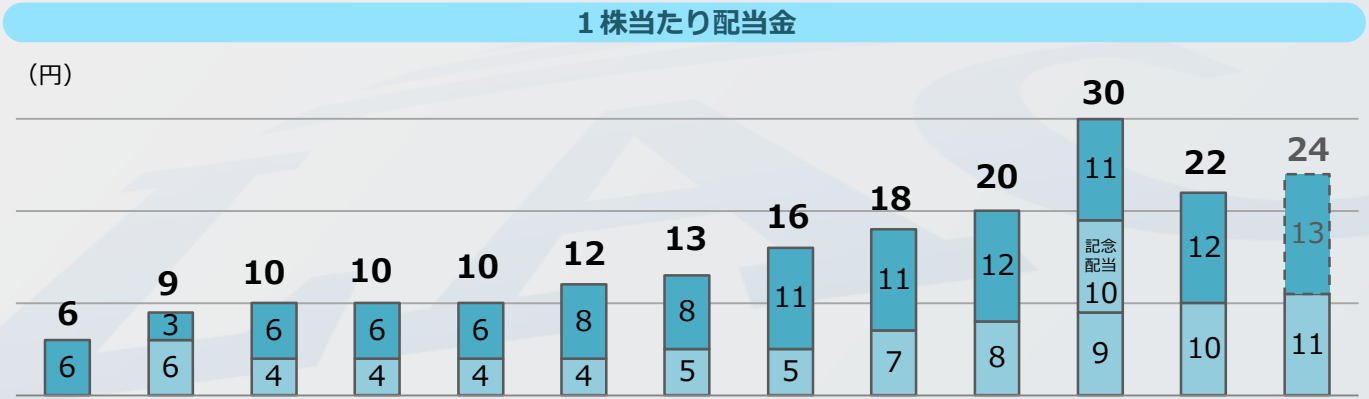
「審査部」による受注案件審査の強化

株主還元（中間配当）

中間配当は計画通り11円の実施予定

配当方針

- 長期的かつ安定的に保有いただくことを目的に、継続的に安定した配当水準を維持
- 基本指標はDOE（株主資本配当率）５％



	'08/3	'09/3	'10/3	'11/3	'12/3	'13/3	'14/3	'15/3	'16/3	'17/3	'18/3	'19/3	'20/3（予想）
期末	6	3	6	6	6	8	8	11	11	12	11	12	13
中間	6	6	4	4	4	4	5	5	7	8	9	10	11
合計	6	9	10	10	10	12	13	16	18	20	30	22	24
DOE	2.8%	4.2%	5.1%	5.2%	4.8%	5.2%	5.0%	5.5%	5.5%	5.5%	5.1%（記念配当を除く）	5.2%	5.2%
(ご参考)配当性向	18.2%	98.7%	-	38.9%	45.0%	34.3%	32.7%	32.3%	31.6%	34.0%	40.5%（記念配当を除く）	36.3%	36.1%

1.2020年3月期 第2四半期決算概要

2.2020年3月期 連結業績予想

3.補足資料

連結業績予想（通期）- 2019年5月13日発表から変更なし -

売上高は大幅増を見込む。利益は社内基幹システムや拠点拡充など将来の成長に向けた投資を行うため、小幅増益に留まる見込み

（百万円）

科目	'19年3月期 通期実績	'20年3月期 通期予想	前期比増減	
			増減額	増減率(%)
売上高	**38,719**	**44,000**	**+5,280**	**+13.6**
営業利益	**2,366**	**2,500**	**+133**	**+5.7**
営業利益率%	*6.1*	*5.8*	△0.4ｐ	-
経常利益	**2,411**	**2,530**	**+118**	**+4.9**
経常利益率%	*6.2*	*5.8*	△0.4ｐ	-
親会社株主に帰属する当期純利益	**1,547**	**1,700**	**+152**	**+9.9**
自己資本当期純利益率(ROE)%	**14.5**	**14.0**	**△0.5ｐ**	**-**

（注） ㈱日本貿易保険との契約に関わる2019年３月期の仕掛分については、同社との協議には時間がかかることも予想されることから上記通期業績予想には含んでおりません。

セグメント別業績予想（通期）- 2019年5月13日発表から変更なし -

ＳＳＳ事業、ＳＩＳ事業ともに増収増益を見込む

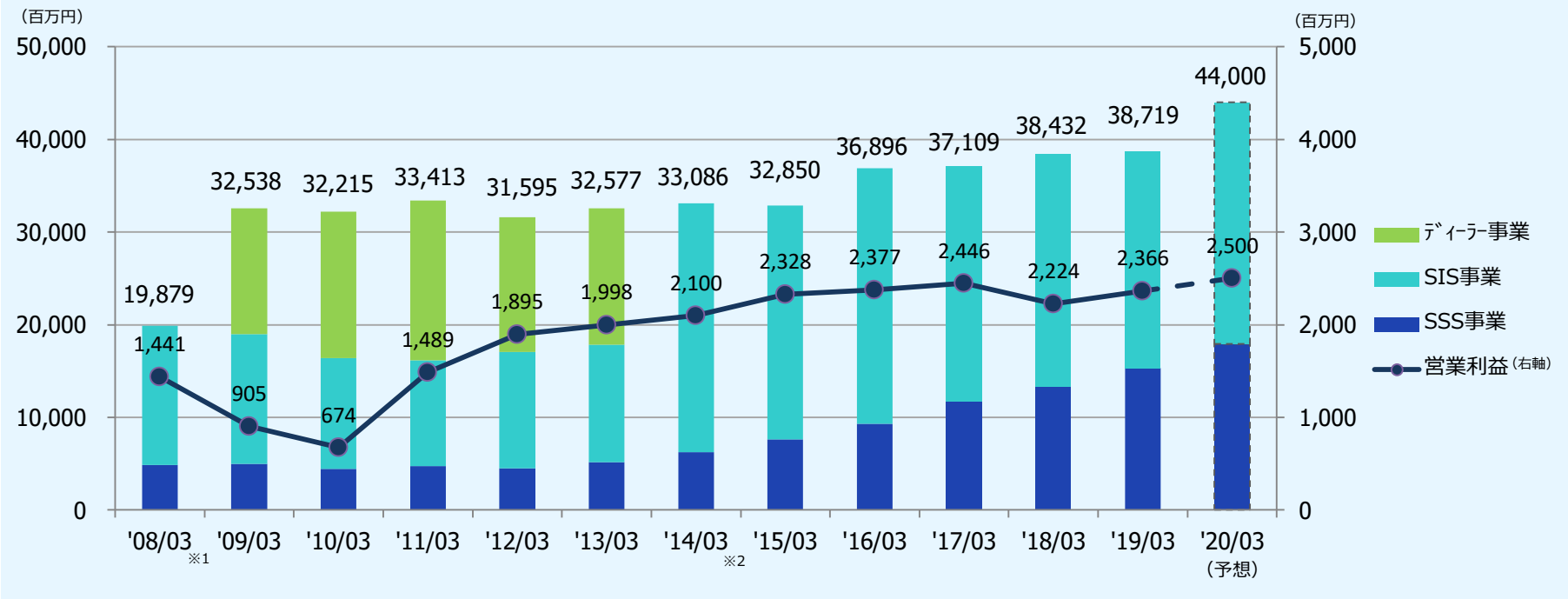
（百万円）

売上高	‘19年3月期 通期実績	‘20年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	15,337	18,000	+2,662	+17.4
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	23,381	26,000	+2,618	+11.2
合計	38,719	44,000	+5,281	+13.6

（百万円）

セグメント利益	‘19年3月期 通期実績	‘20年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	2,632	3,150	+517	+19.7
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	2,800	3,500	+699	+25.0
全社共通費用	△3,066	△4,150	△1,083	△35.0
合計	2,366	2,500	+133	+5.7

業績の推移

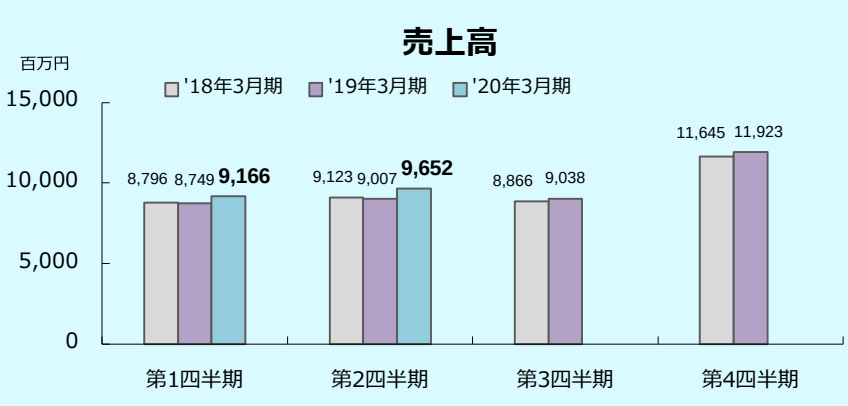


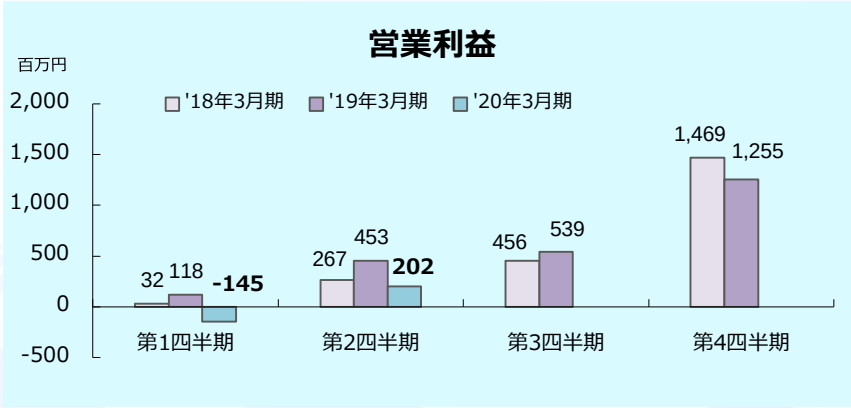
※1　旧ラックとA&Iの経営統合初年度である'08年3月期の業績には、旧ラックが決算期を12月から3月に変更したことから旧ラックは'07年1月1日～'08年3月31日までの15ヶ月決算を反映していますが、本資料では、同一期間で比較するため'07年1月1日から'07年3月31日までの旧ラックの個別業績（売上高2,019百万円、営業利益329百万円）を差し引き、1年換算とした場合の想定実績で記載しています。

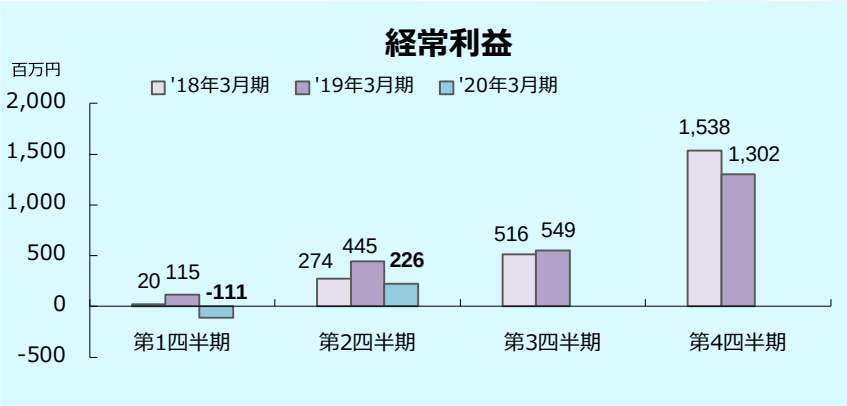
※2　事業セグメントの変更は'15年3月期からですが、セグメント別の業績を比較するため、その前年度である'14年3月期も同条件で組み替えた場合の想定実績で記載しています。

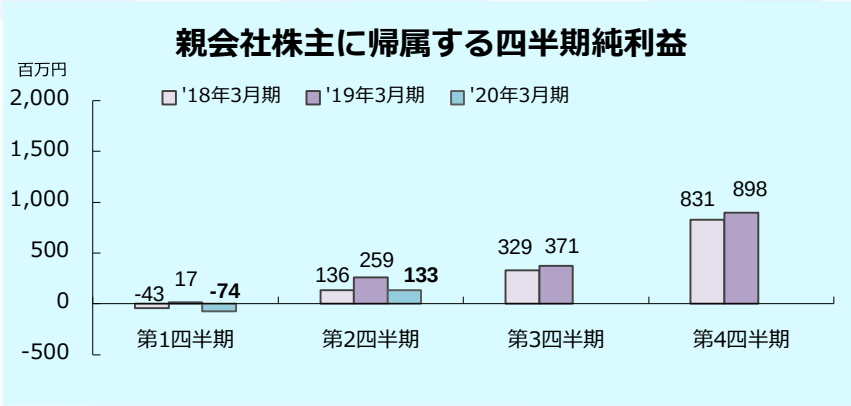
1.2020年3月期 第2四半期決算概要
2.2020年3月期 連結業績予想
3.補足資料

2020年3月期 連結業績（四半期）







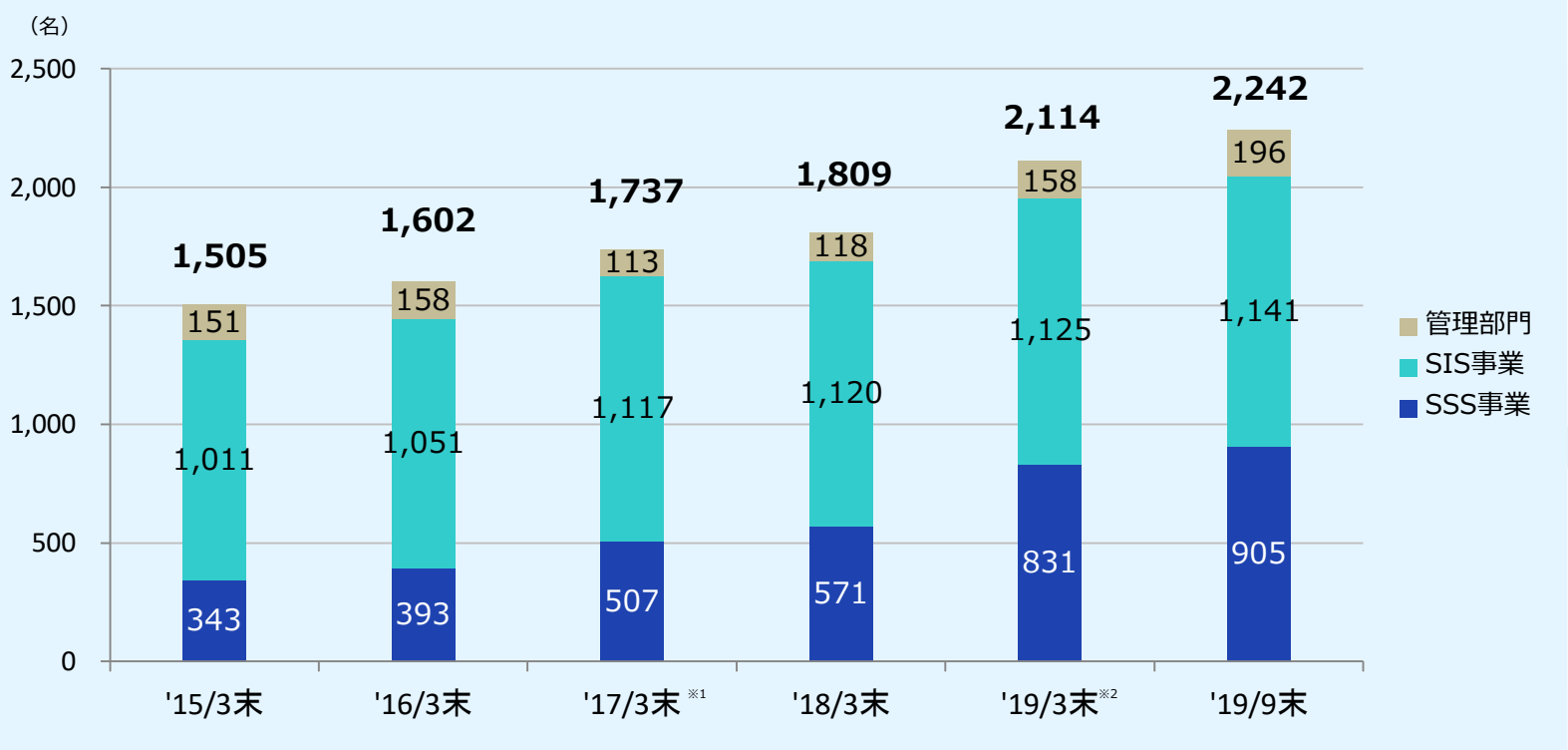


2020年３月期 セグメント別業績（2Q累計）

（百万円）

売上高	‘19年3月期		‘20年3月期		前年同期比	
	2Q累計実績	構成比%	2Q累計実績	構成比%	増減額	増減率%
セキュリティソリューションサービス（ＳＳＳ）事業	**6,807**	**38.3**	**7,303**	**38.8**	**+496**	**+7.3**
セキュリティコンサルティングサービス	1,316	7.4	1,233	6.6	△83	△6.3
セキュリティ診断サービス	923	5.2	863	4.6	△60	△6.5
セキュリティ運用監視サービス	2,585	14.6	2,627	14.0	+42	+1.6
セキュリティ製品販売	1,364	7.7	1,847	9.8	+483	+35.4
セキュリティ保守サービス	616	3.4	731	3.9	+114	+18.6
システムインテグレーションサービス(ＳＩＳ)事業	**10,949**	**61.7**	**11,515**	**61.2**	**+565**	**+5.2**
開発サービス	7,021	39.6	7,265	38.6	+244	+3.5
ＨＷ／ＳＷ販売	945	5.3	1,097	5.8	+151	+16.0
ＩＴ保守サービス	2,302	13.0	2,426	12.9	+123	+5.4
ソリューションサービス	679	3.8	726	3.9	+46	+6.9
合計	17,757	100.0	18,819	100.0	+1,061	+6.0

連結従業員数の推移



※1　2018年３月期より、定年再雇用の増加や契約の長期化などを鑑み、契約社員を含めた基準に変更しています。加えて、主に管理部門において、関連する業務に沿った事業区分に見直しています。なお、ＳＳＳ、ＳＩＳの両事業に携わる従業員について、稼動状況を踏まえた区分としております。
2017年3月末の人員数は同基準により遡及して算出していますが、2016年3月末以前については従来基準の従業員数となっています。

※2　2019年3月期以降のSSS事業における連結従業員数は、2018年4月2日に子会社化した㈱アジアンリンクの従業員が含まれています。

主なトピックス

■ 「TeamViewer」によるリモート接続ソリューションで支援（2019年4月）

業務の効率化や働き方の多様化といった業務変革に取り組む企業に対し、セキュアで効果的なリモート接続ソリューションを活用した支援を行うため、TeamViewerジャパン㈱との包括的なパートナー契約を締結し、協業を開始。

リモート接続製品「TeamViewer」に、ラックのセキュリティ対策の知見を活用することで、安全にリモート接続ソリューションを提供することが可能。

■ TISとクラウドおよびセキュリティ領域で協業（2019年5月）

TIS㈱と、クラウドサービスおよびセキュリティサービスの領域において協業。

マルチクラウド分野で豊富な実績とノウハウを持つTISとセキュリティ分野において業界屈指の知見を有するラックの双方の強みを活かし、金融、製造・サービスなどのエンタープライズ企業および公共分野向けにサービスを共同で展開。

主なトピックス

■ サポート終了製品の延命支援サービスの提供を開始（2019年6月）

サポート終了を間近に控えたWindows Server 2008を利用するユーザーに対して、マイクロソフト社のクラウド環境へ移行し3年間の延命を実現する「セキュリティ診断付Azure移行支援サービス」の提供を開始。

クラウドへ移行したシステムのセキュリティ診断を行い、クラウド利用のセキュリティ上の懸念を解消。

■ 無料調査ツール「FalconNest」にメモリ領域の検査機能を追加（2019年7月）

セキュリティ調査ツール「FalconNest（ファルコンネスト）」に、PCのメモリ領域を調査しマルウェアを検知する機能「Phantom Seeker（ファントム シーカー）」を新たに追加し公開。

マルウェアの主な機能をメインメモリ内に巧妙に潜ませる手法に対応し、既存の「Live Investigator」「Malware Analyzer」とあわせて、マルウェア感染で必要となる初期調査対応を概ねカバー。

主なトピックス

■ 英国Assuria社とサイバーセキュリティ事業協業について発表（2019年7月）

海外で事業展開を行う日系企業のセキュリティ対策の支援強化に向けて、セキュリティ監視領域を中心に協業開始。

海外市場で実績のあるAssuria製品と、ラックが日本で培ったサイバーセキュリティの知見・運用ノウハウを活かしたセキュリティサービスを共同で開発し、国内とASEAN地域からサービス展開することを目的に協業。将来、ASEAN地域での実績を元にその他地域へのサービス展開も視野。

■ HashiCorp Japan社と認証・認可情報管理ソリューションで協業開始（2019年8月）

認証・認可情報（以下　シークレット情報）管理ソリューションの普及を目指した協業を開始。

システム開発者や運用担当者は、「Vault（ヴォルト）」を活用することで、統一のセキュリティポリシーのもと複数のクラウド環境下で自動的にIDやパスワードなどの認証情報を適切に管理・保護でき、セキュリティ確保のための管理負担を大きく抑制することが可能。

主なトピックス

■ マネージドEDRサービス for CrowdStrikeの提供開始について（2019年8月）

エンドポイントのセキュリティ対策であるEDR（Endpoint Detection and Response = エンドポイントでの検知と対応）のマネージドサービスにCrowdStrike®を対象に加えた、「マネージドEDRサービス for CrowdStrike」の提供を開始。

複数のEDR製品の中より、未知の脅威に対する検知精度の高さや、脅威インテリジェンスとの連携や脅威ハンティング機能に優れるCrowdStrike社の「CrowdStrike Falcon®」を採用し、お客様に代わってラックがエンドポイントの監視・隔離・調査を対応。

■ 九州工業大学とAIを活用したサイバー防御における共同研究を開始（2019年8月）

国立大学法人九州工業大学と、日々複雑化しているサイバー攻撃からの被害を受ける前に攻撃を防御するAI活用技術（次世代データ分析手法）の確立を目指し、2019年9月1日より共同研究を行うことに合意。

AIに関する研究で高い知見を持つ九州工業大学と、潜伏した脅威と兆候を検知し未然に防御するためのAIを活用した次世代データ分析に関し共同研究を推進。

主なトピックス

■ 「顔認証のぞき見ブロッカー」の販売を開始（2019年9月）

政府が推進する「働き方改革」の一環として急速に普及が進む「テレワーク」の安全性を高めるため、㈱セキュアとパートナー契約を締結し、「顔認証のぞき見ブロッカー」の販売を開始。

「画面に表示された情報の保護」に特化した端末インストール型ソフトウェアであり、顔認証技術を活用することで、事前登録した人物以外の顔を検知した場合や操作者の不在を検知した場合にパソコン画面をロックし、のぞき見を防止。

LAC
ともに、イキル

※　本資料は2019年11月現在の情報に基づいて作成しており、記載内容は予告なく変更される場合があります。
※　LAC、ラック、JSOC、サイバー救急センターは株式会社ラックの登録商標です。
※　その他記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。

株式会社ラック
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-16-1
平河町森タワー
Tel 03-6757-0107（IR直通）
ir@lac.co.jp
www.lac.co.jp